

関東地方ESD活動支援センター地域意見交換会in埼玉

SDGs時代の、 学校と地域が連携 したESDを考える

関東地方ESD活動支援センター（関東ESDセンター）
関東地方環境パートナーシップオフィス（関東EPO）

平成31年2月16日



エポ ジオック EPO/GEOC

- ・環境省の出先機関である地方環境事務所の管轄区域（計8ブロック）ごとに、官民協働による「地方環境パートナーシップオフィス（地方EPO）」を運営（環境教育等促進法第19条第1項に基づく拠点として位置づけ）。
- ・中間支援組織として、環境NPOの基盤強化支援のほか、地域の環境課題に応じて、多様な主体が対等な立場で相互に協力して課題解決に取り組むよう、コミュニケーションの場づくり等を行っている。



関東EPOの主な役割

関東 1都9県の
環境パートナーシップ※に関する

- ☐ 情報収集&情報提供
- ☐ 人材育成のサポート
- ☐ 情報共有の場づくり
- ☐ 各々の取組の推進・支援



※環境パートナーシップ・・・多様な主体がそれぞれ適切に役割を分担しつつ、対等な立場において相互に協力して行う環境活動全般（協働取組）



Education for Sustainable Development

～のための教育
～持続可能な
～開発・発展

持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育(ESD)」は、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。【ESD国内実施計画より】

ESD推進の経緯

- 2002年（H14）持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）で「ESDの10年（DESD）」が提唱される。
- 2005年（H17）**国連持続可能な開発のための教育の10年**開始
～2014年（H26）まで
- 2014年（H26）「ESDに関するユネスコ世界会議」においてDESDの後継プログラムとして「**ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）**」の開始が正式発表
- 2015年（H27）ESD活動支援企画運営準備委員会において検討開始
- 2016年（H28）「我が国における『持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム』実施計画」（**ESD国内実施計画**）が関係省庁連絡会議で決定
- 2016年（H28）平成28年4月 ESD活動支援センター（**全国**）開設

【ESD国内実施計画（抜粋）】

[～ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、拠点の形成とともに、地域が必要とする取組支援や情報・経験を共有できる「**ESD活動支援センター（全国・地方）**」を整備し、地域の実態を踏まえた効果的な運用を図っていく。]



地方ESD活動支援センター



関東地方ESD活動支援センター

名 称：関東地方ESD活動支援センター

略 称：関東ESDセンター

英語名：ESD Resource Center of Kanto, Japan

開設日：平成29年7月3日（月）

【関東ESDセンターの役割】

- ① ESD活動を支援する**情報共有機能**
- ② 現場のニーズを反映した**ESD活動の支援機能**
- ③ ESD活動の**ネットワークの形成機能**
- ④ 人材育成機能

① ESD活動を支援する情報共有機能



<http://kanto.esdcenter.jp/>

ホームページでは、関東地域で開催されるESD/SDGs関連の情報を中心に、各地で開催された行事取材したレポートや、当センター主催の勉強会、ESDに関する地域の活動拠点などについて、情報提供をしています。



毎月第1木曜日にメールマガジンを発行しています。関東地方のESDに関するイベント、セミナー、補助金・助成金募集などの情報をまとめてお送りしています。ESDにご関心のある方は、是非ご利用下さい。



Facebookでも、日々の活動など情報発信中！いいね！をお願いします。

② 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能 “ESDユース応援企画” ESD勉強会 「みんなで考える、高校向けSDGSプログラム」

○日時：平成30年6月8日（金）18:30～20:30

○場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）



② 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能 “ESDユース応援企画2” ESD勉強会 「誰も取り残さない、高校でのESDを考える」

○日時：平成30年9月1日（土）14:00～16:30

○場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）



③ ESD活動のネットワークの形成機能

関東地方「地域ESD活動推進拠点」

【茨城県】認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ

【栃木県】NPO法人エコロジーオンライン

【群馬県】チャウス自然体験学校（NPO法人 チャウス）

【埼玉県】筑波大学附属坂戸高等学校

【千葉県】特定非営利活動法人環境パートナーシップちば

【東京都】新宿ユネスコ協会／成蹊学園サステナビリティ教育研究センター

立教大学ESD研究所／多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター

【新潟県】学校法人 日本自然環境専門学校／公益財団法人 鼓童文化財団

新潟市水族館マリニピア日本海

【山梨県】公益財団法人キープ協会

【静岡県】特定非営利活動法人アースライフネットワーク

伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会

【1月末時点】全国登録件数：67件、内関東：15件

③ ESD活動のネットワークの形成機能

関東ESD拠点・意見交換会

日時：平成30年12月22日 会場：東京ウィメンズプラザ 参加者：13拠点・29名



③ ESD活動のネットワークの形成機能



関東ESD推進ネットワーク 第2回 地域フォーラム 地域のESD実践者と考える、SDGsに貢献する取り組み

日時：平成30年12月22日 会場：東京ウィメンズプラザ
参加者：121名



③ ESD活動のネットワークの形成機能

地域ESD拠点の意見交換会

「地域意見交換会in埼玉2019」
～学校と地域が連携したESDを考える～

日時：平成31年2月16日（土）
14:00～16:30

会場：筑波大学附属坂戸高等学校

事例紹介① SDGsを教室へ、研究開発学校
「グローバルシティズンシップ科」の実践
埼玉県上尾市立東中学校
研究主任 松倉 紗野香 先生

事例紹介② SGHの取組
筑波大学附属坂戸高校 建元 喜寿 先生

第3回 やまなし環境教育ミーティング

日時：2019年3月16日（土）
10:00～16:00

会場：山梨県立八ヶ岳
自然ふれあいセンター

パネルディスカッション
「教育」「暮らし」「仕事」をテーマに
・小西 貴士（写真家）
・永井 寛子（認定NPO法人スペースふう）
・中田 無双（北都留森林組合参事）

事例紹介＆情報交換 ～環境教育屋台村～

④ 人材育成機能

静岡県立三島北高校
「SGH初期指導-LWIの発見」
平成30年4月11日（水）
静岡県立三島北高校



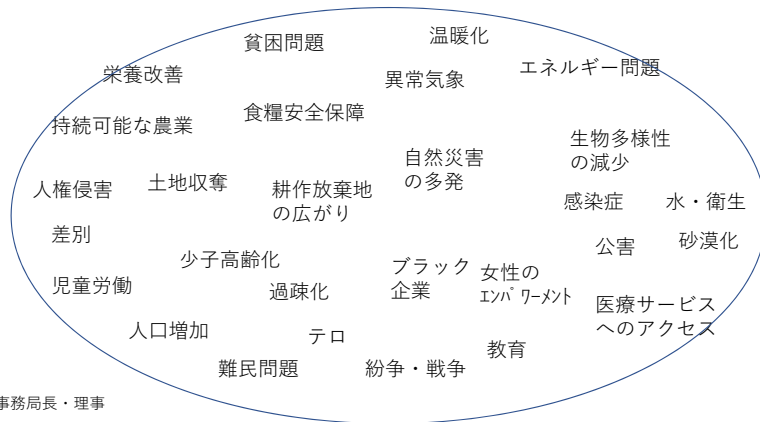
群馬県環境アドバイザー研修会
「ESD/SDGsについて」
平成30年6月28日（木）
群馬県庁2階ビジターセンター



東京都ユネスコ連絡協議会
ESD研究会
「SDGs達成に向けたESDの実践」
講演・ワークショップ
平成30年7月21日（土）
新宿区立男女共同参画推進センター



地球規模課題の深刻化



CSOネットワーク事務局長・理事
黒田かをり氏作成
参考：「新CSR検定3級」オルタナ他

持続可能な開発目標（SDGs）

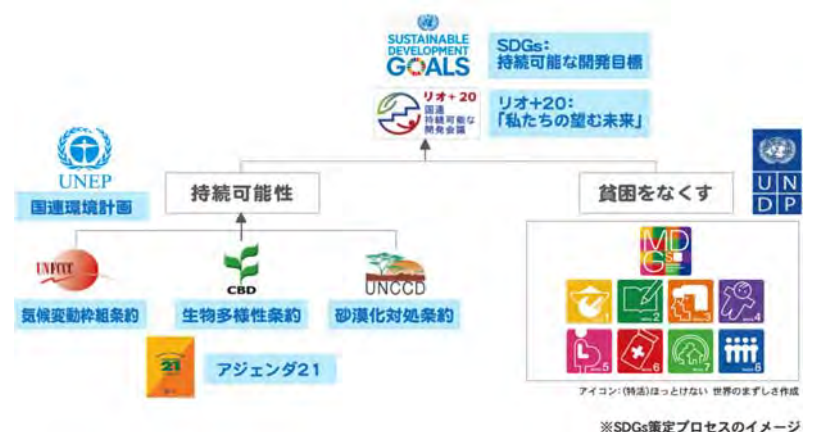


2030年を達成期限とする17のゴール、169のターゲット

持続可能な開発目標（SDGs）

誰もが使える		
1 貧困をなくす あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。	7 クリーンエネルギー すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。	13 気候変動へのアクション 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
2 飢餓をなくす 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	8 デイセントワークと経済成長 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。	14 海洋資源 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
3 健康と福祉 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	9 産業・技術革新・社会基盤 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。	15 陸上資源 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を防止する。
4 質の高い教育 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	10 格差の是正 各国内及び各国間の不平等を是正する。	16 平和、正義、有効な制度 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
5 ジェンダー平等 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	11 持続可能なまちづくり 包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する。	17 目標達成に向けたパートナーシップ 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
6 水と衛生 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	12 持続可能な消費と生産 持続可能な生産消費形態を確保する。	

SDGsがつくられたプロセス



普遍性：途上国だけではなく、先進国も取り組む

SDGsのポイント

持続可能な開発のための2030アジェンダ

・アジェンダ2030は前文に加えて4つのセクションからなる。

- ①宣言
- ②持続可能な開発目標（SDGs）とターゲット
- ③実施手段とグローバル・パートナーシップ
- ④フォローアップとレビュー

Point

- ・ **普遍性**：途上国だけではなく、先進国も取り組む
- ・ **包摂性**：「誰一人取り残さない」
- ・ **統合性**：課題はつながりあっている



※出典：新インターナショナル・リサーチ・センター

「SDGs」と「教育」

- ・教育はSDGsの目標4に位置付けられており、ESDは目標4の中のターゲット4.7に記載されています。しかし、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。ですから、ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。また、SDGsを、ESDで目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできます。



持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて
～学校等でESDを実践されている皆様へのメッセージ～
文部科学省 日本ユネスコ国内委員会教育小委員会

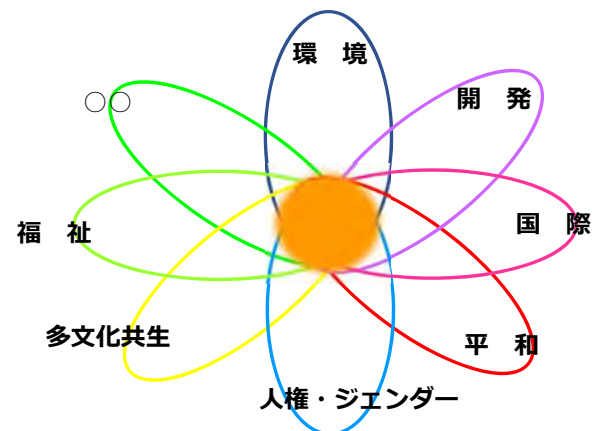
学習指導要領の改訂

■ 前文（幼・小・中）

これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになる・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容をこの考え方は、具体的に組み立てた教育課程である。

平成29年3月31日公示 新学習指導要領

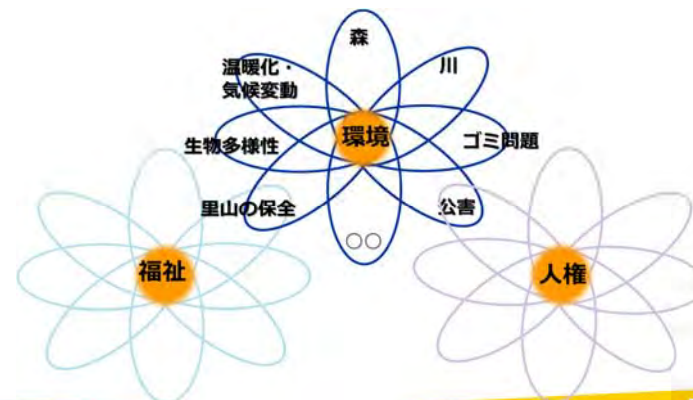
〇〇教育の接点 = ESD



ESDの特徴

多様なテーマを
総合的に扱います

問題の多くは、様々な要素が密接に関わりあっています。
それらのつながりを考え、具体的な問題解決に結びつけます。



ESDの特徴

ESDの対象は子ども
だけではありません

学校、企業、地域住民、行政、NPO・・・
多様な立場や世代の人々がESDの担い手であり、
学び手です。



「協働」する意識
・適切な役割分担
・対等な立場
・相互に協力
=お互いの強みを
活かして、同じ課
題を共有し、協力
し合う
=持続可能な社会

ESDの特徴

「教える」教育で
はありません

具体的な課題・問題を解決するために考え、話し合
い、行動しながら学ぶ学習活動です。



「気付き」を大切
にする
・どうして？
・誰が？
・どこで？
・どうしたら？

ESDの特徴

未来を描くこと

地域の歴史や現実を学び、そこから自分たちが望む未来を描くことから始まります。



50年後も、
100年後も、
自分の子どもも、
孫も、そのまた
子どもも、
ずっとこの地域で
暮らすために

① 課題・テーマのつながりを考える



② 人・組織のつながりを考える



③ 過去や世界とのつながりから未来を考える

